

平成28年3月31日

新宿区長 へ

法人名 特定非営利活動法人
国際ビフレンダーズ
東京自殺防止センター
所在地 新宿区大久保 3-10-1
(フリガナ) カウ ユヅウ
代表者氏名 代表理事 加藤 勇三

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	自殺予防「ビフレンディングの種を蒔く」事業
実施日時又は期間	講演開催日 ①平成27年8月22日（土）「若者の生きづらさに寄り添う」 ②平成28年2月11日（木祝）「応答するひと～」 ③平成28年3月26日（土）「孤独について考える」
対象者の範囲及び人数	自殺予防に関心のあるゲートキーパーになれる人 ①41名（新宿区民5名）②38名（新宿区民6名）③33名（新宿区民5名）
事業内容	講演会を通じて広く区民の方に自殺防止が身近な問題であるという意識を持って頂き、自殺防止に関して誰にでもできることがあるということを理解してもらう。
具体的な活動状況	①平成27年8月22日（土）19:00～20:30 戸塚地域センター 7F 多目的ホール 講演会「若者の生きづらさに寄り添う」 森山花鈴氏（元内閣府自殺対策推進室、現在 NPO 法人ぐりーふサポートハウス事務局長として自死遺族の子どもたちに向き合っている）による「若者の自殺に関してデータ分析を中心に諸外国との比較検討を踏まえた提案」 ②平成28年2月11日（木祝）14:00～16:00 戸塚地域センター 7F 多目的ホール 講演会「応答するひと～」 西田正弘氏（子どもグリーフサポートステーション代表、自死遺族の子どもたちのケアを永年やってこられた。）による自死遺族（子ども）のケアに関する提言。 ③平成28年3月26日（土）19:00～21:00 戸塚地域センター 7F 多目的ホール

	<p>講演会「孤独について考える」</p> <p>太田フジ江氏（釜石傾聴ボランティア代表、震災以降釜石にて傾聴活動を実践）、藤原敏博氏（岩手自殺防止センター理事長、陸前高田市において被災者自身が周りのひとのケアができるように傾聴ボランティアを育てるためのワークショップを開催）による東北大震災五年後の今必要とされているケアとは何かについて語ってもらった。</p>
事業の成果	<p>①講演会参加者から自殺防止電話相談員養成研修説明会への参加者が4名あり、徐々にではあるが自殺防止への関心が高まった。</p> <p>②夜間の電話相談は無理だが、その他の支援（広報活動のお手伝い等）を申し出て下さる方があった。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			173,523 円
	参加費・資料代等			円
	その他の収入			円
	協働推進基金助成金	助成金交付額		320,200 円
	計			493,723 円
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	41,862 円	<p>戸塚地域センター多目的ホール使用料 5,400 円（夜間 1・2）×2 回+4,400 円（午後 1・2）×1 回=15,200 円</p> <p>配布資料コピー代</p> <p>① 8/22 用カラー@20 円×480 回+白黒@4 円×240 回=10,560 円×1.08=11404.8 円（小数点以下切り捨て）</p> <p>② 2/11 用カラー@13 円×640 回+白黒@2.8 円×560 回=9,888 円×1.08=10679 円</p> <p>③ 3/26 用カラー@13 円×240 回+@2.8 円×400 回=4,240 円×1.08=4579.2 円（小数点以下切り捨て）</p> <p>①+②+③=26,662 円</p>	

宣伝費	55,250 円	チラシ印刷 A4 (両面カラー) ①8/22 用 (7,000 枚) =16,230 円 ②2/11 用 (5,000 枚) =17,400 円 ③3/26 用 (7,000 枚) =20,720 円 代引料 300 円×3 回=900 円
リース費	円	
消耗品費	1,759 円	コピー用紙 ①A4 0.6216 円×1,240 枚=770.784 円 (小数点以下切り捨て) ②B5 0.6166 円×240 枚=147.984 円 (小数点以下切り捨て) ③A3 カラー用紙 2.634 円×320 枚=842.88 円 (小数点以下切り捨て) ①+②+③=1,759 円
謝礼	75,000 円	講師謝礼@33,411 円×4 名 (1 名×2 回+2 名×1 回) = 133,644 円内、森山氏 1.5 時間 15,000 円+西田氏太田氏藤原氏 20,000 円×3 名=75,000 円を計上 (58,644 円は助成対象外)
人件費	円	
材料費	円	
交通費	円	
その他諸経費	170,764 円	郵便代 (チラシ送付) ①70 円×1,206 通=84,420 円 ②82 円×1,016 通=83,312 円 ③116 円×1 通=116 円 ①+②+③=167,848 円 ヤマト便 972 円×3 回=2,916 円
助成対象事業費 (小計)	344,635 円	
余 剰 金	90,444 円	助成金交付額 320,200 円 - (助成対象事業費 (小計) 344,635 円×2/3) =90,444 円
助成対象外事業費	58,644 円	講師謝礼 (森山氏 18,411 円+西田氏、太田氏、藤原氏 13,411 円×3 名=58,644 円)
事 業 総 額		493,723 円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	自殺防止は身近な問題であり、誰もが自殺防止に関われる意識を持つために、新宿区の自殺の特徴である若年層の自殺の多さを切り口にした。若年層の孤立を防ぎ、彼らの状況・感情への理解を深め、誰にもできることがあるという意識への一助になったのではないか。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	講演会の参加者から、同じ会場で開催した「自殺防止のための体験傾聴講座」、自殺防止電話相談員養成研修説明会への4名ほどの参加がみられ、自殺防止への関心が増した。
費用対効果は適正であったか。	費用の大半は広報である。多くの方へ知って頂くのに適正であると考え。今回参加者に若い年代の方が増加した効果が見られた。
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	予定していた講師の方の健康上の理由で代替候補の調整が遅れ、スケジュール的に厳しいものとなってしまった面があり、それが効果的な広報ができなかった問題としてある。 若者の自殺防止に若者自身に関心をもっと持っていただくために既存のチラシ、HP以外のWEB広報（ツイッター、facebook）の利用、また町内会等の広報ツールの利用が可能であるかをさらに検討する必要があると感じた。
理解者や支援者が広がったか。	すでに記述したとおり。講演会参加者より、参加者または周りの方の、その後の当団体の自殺防止活動への参加、メルマガ読者の増加がみられたことから関心が広がった。
事務局の執行体制は十分だったか。	人数、準備等できる範囲で十分に行えた。
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。	現在の寄付者（個人・団体）へ、継続的な寄付の依頼にむけ、活動報告を兼ねたニュースレター送付(毎月)、及びアウトバウンドコールを行った。
その他	我々の事業は即効性のあるものではない。しかし、数年前に講演会等の行事に参加した新宿区民(1名)が今年度相談員として応募し、現在研修中である。

4 活動の成果

*事業の成果物(冊子など)又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
*参加者の意見なども報告してください。

講演会は多様な切り口で若者の自殺防止が語られた。
若者のおかれた状況、心理状態から自殺へ向かう気持ちの理解と共に、自殺防止ということを身近に感じられたとの感想が見られた。

8月22日 森山花鈴氏 「若者の生きづらさに寄り添う」

若い世代の現状・感情面が統計をもとに語られると共に、奨学金の返済・非正規雇用の増加など経済的な問題・孤立が遠因となって自殺へ向かう可能性が語られ理解が深まった。

2月11日 西田正弘氏 「応答する人 西原由記子さんとの出会い」

自死遺族の支援を長年続ける立場から、誰かを支援するには自分を大事にすることが大切という言葉に共感や発見があったとの意見が目立つ。

「死にたい気持ちがあるのか」と問う事は、自殺を考える人に大切な問いであり、自殺へ追い込むことではないということに驚きを感じたと反響があった。

3月26日 太田フジエ氏 藤原敏博氏 「孤独について考える」震災後5年の現場から東日本大震災直後より被災地で傾聴を通して孤立や、自殺防止の活動を続けてきた両氏より子育て中のお母さんへの支援、支援から自らの活動へと動き出した様子、また支援者である若い世代の自殺が続いていることが語られた。質疑応答では「支援を続けるうえで燃え尽きないためにどのようにしているのか」「傾聴技能を取得して得たもの、失ったものは何か」など質問が多く寄せられた。また、アンケートでは被災地から遠い新宿区で、今自分は何ができるのかとの自問が多く寄せられた。

多様な自殺防止の切り口の講演会から、自殺防止は特別なものではなく、「普段の声かけ対等な立場で接する」などの姿勢が伝わったと実感を持った。